

東京学芸大学 パッケージ型支援プロジェクト



平成 30年度シンポジウム

～「貧困社会」に教育はどう立ち向かうか～

2019年 3月 16日 (土)

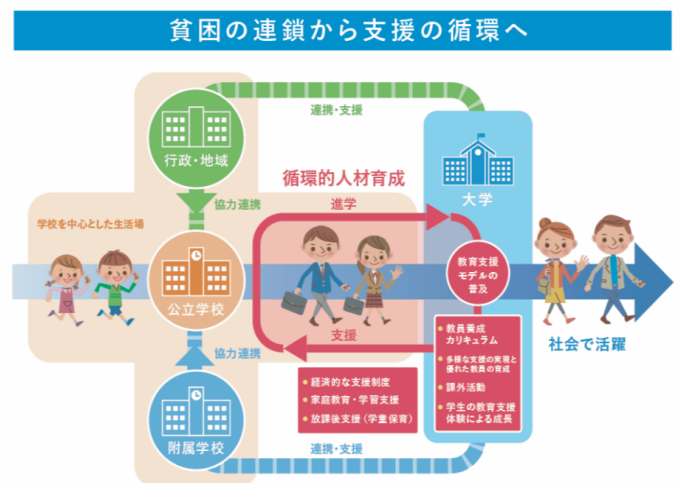
13:00～16:30

一橋講堂 中会議場
(学術総合センター2階)

近年、様々な調査・研究によって、社会課題としての「子どもの貧困」が再注目されています。経済的困難と絡み合って生じる子どもの不利・困難に対して、総合的・包括的な教育・支援のアプローチを行うことを通じて、子どもが子ども期を安心して過ごし、様々な機会を得ながら将来に向かって自己実現していくことができるような社会を実現することは、日本社会における重要な課題となっています。

東京学芸大学では、平成27年度より研究プロジェクトが発足し、教育を核にして多領域の専門家が結集し、現代的な教育課題としての「子どもの貧困」について学際的に研究を行うとともに、自治体・学校・支援団体等、教育現場と連携・協働しながら様々な取り組みを進めています。

今年度のシンポジウムでは、プロジェクトで取り組んでいる事例の紹介を交えながら、貧困に関わる政策担当者・研究者・実践家や教育関係者をお招きし、「基調対談」「事例の紹介」「パネルディスカッション」を行うことを通じて、今日の社会や教育をめぐる生じる「子どもの貧困」の課題の捉え方や、困難・不利を抱える児童・生徒への、学校や地域における教育・支援のアプローチのあり方について議論します。



参加費無料 定員 100名

事前申し込みはこちらから

<http://ccss.tokyo/archives/1226>

ページから入力フォームにアクセスしてください

対象：学校教員、教育支援専門職（スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等）、教育委員会関係者、NPO など教育支援活動団体関係者、貧困支援に関わる民間団体・企業、地域での支援者、大学教員、学生、市民

Program

I. 基調対談(45分)

「貧困社会」を考える -「子どもの貧困」が深刻化する社会の問い直し-

松田 恵示(東京学芸大学 副学長)

×

魚井 宏泰(内閣府政策統括官(共生社会政策担当) 付子どもの貧困対策担当企画調整官)

II. 事例紹介(60分)

「子どもの発達・学力と貧困-主体的な学びを支える授業づくりの視点から-」

大澤 克美(東京学芸大学 教授)

「子どもの学びを支える校内支援体制」

小野 學(東京学芸大学パッケージ型支援プロジェクト 特命准教授)

「生活困窮者支援から見えてくる社会の包摂性」

入澤 充(特定非営利活動法人Learning for All)

「多様性に開かれた附属学校改革」

小岩 大(東京学芸大学附属竹早中学校 教諭)

<休憩>(20分)

III. パネルディスカッション

「貧困社会」に教育はどう立ち向かうか-(75分)

<パネラー>

赤松 理(公立小学校長)

呉本 啓郎(全国国立大学附属学校PTA連合会長)

入澤 充(特定非営利活動法人Learning for All)

井上 夢可(公立中学校教諭 東京学芸大学卒)

<コーディネーター>

加瀬 進(東京学芸大学児童生徒支援連携センター長・教授)

湯浅 誠(社会活動家 法政大学教授 NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長)

一橋講堂 中会議場

(学術総合センター2階)

Place

〒101-8439

東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター2階

★主な交通アクセス

【東京メトロ半蔵門線】 【都営三田線、都営新宿線】
神保町駅 (A8・A9出口) 徒歩4分

【東京メトロ東西線】
竹橋駅 (1b出口) 徒歩4分

※シンポジウムの内容や申し込みに関するお問い合わせは、以下までご連絡ください。

東京学芸大学パッケージ型支援プロジェクト 児童・生徒支援連携センター

TEL:042-329-7921

MAIL:ccss@u-gakugei.ac.jp

